

原子力政策円卓会議プレゼンテーション

1. JOC 臨海事故発生背景

- 1) 「逆風」と「安全神話」 内部モラルの風化
- 2) 護送船団的体質 推進と規制の未分化
原子力安全規制行政の弱体
- 3) 危機管理・防災対策の形式主義、不存在

2. 東海村民は今

99/12 のアンケート調査

(同一人に事故前と後の意識の変化を聞いている)

1) 原子力の安全性	事故前	事故後
安全・まあまあ安全	62.9%	14.9%
危険	11.9	53.9
少し危険	20.3	24.0
2) 原子力推進について		
推進(積極・慎重)	52.4	32.4
現状維持	30.1	17.8
廃止(早急・除々)	11.7	39.7
3) 今後の村での原子力の位置付け		
原子力安全のモデル自治体に	52.8%	
原子力依存から脱却	23.8%	
エネルギー研究の先進地に	13.8%	
原子力の先進地としてのまち	6.1%	

住民の望む・・・

村の今後の重点課題 「安全な生活の確保」「健康で健全な暮らし」

3. 東海村からの発信 東海村の抱えている原子力開発上の問題

- 1) 原子力安全規制と原子力防災問題
- 2) 高レベル・低レベル核廃棄物処理処分問題
- 3) 国内初の原子力発電炉の廃炉問題

東海村は日本が直面している原子力問題の先端にあり、全てを抱えている。

東海村から発信していく

4. 本日のテーマについて

原子力推進の論理は一面的、国民意識との非難が拡大している

原子力推進か反原子力かは不毛の議論

21世紀の日本と世界を見据えた議論をすべきとき

原子炉の安全管理への危惧と負の遺産

ドイツの仮説 科学技術の進歩に仮説は不可欠

自然エネルギー、新エネルギーの普及には地方論理、地域の論理が前提

中央中心の論理、国一括の論理の転換を

衆参議員の「新エネルギー促進議員連盟」に期待する

エネルギー問題全般についての国会の場での議論に期待する

おわりに

東海村はかつて原子力という新エネルギーの国内での開発促進に貢献してきた、今後は選択肢を広げて新エネルギー開発にも関心を払いたい。